



もみじ

第13号

【ホームページ】 <http://akihaku-dai1.city-niigata.ed.jp>



～あじさい『ふゆめがっしょうたん』～



年少組生活発表会をとおして

先週、年少組の生活発表会がありました。『てぶくろ』の絵本をもとに劇遊びが繰り広げられました。

入園してから、何かになって遊ぶことを楽しんできた年少組の子どもたちです。自分のなりたいものになって、『てぶくろ』（福音館書店）の話の中で繰り返される「ここにすんでいるのはだあれ？」「〇〇」「あなたは？」「△△」のやりとりが子どもたちの中で共通の言語体験となり、共通のイメージの体験をもつことになりました。

また、「ここにすんでいるのはだあれ？」と尋ねられた手袋の中に入っている子どもたちは、互いの顔を見合いながら「探検隊」「☆☆ちゃん」と言い、皆で指さしをして確認していました。自分の名前やなっているものの名前を言ってもらおうとホッと一安心した表情になります。そして、次に「あなたはだあれ？」と尋ね返すのです。

このやりとりで、返答するのに時間がかかった場面がありました。すると手袋の中にいる子ども同士で「あなたはだあれ？」の大合唱になりました。尋ねられている役の子どももタイミングを見計らって、ちゃんと自分の役の名前を言えました。ドキドキしつつ微笑ましい姿でした。

子ども同士通じ合う言葉を豊かにもてば、心の通い合いが豊かにできます。ここに共感が生まれます。共感することが多ければ多いほど、心がつながります。そのつながりが連帯感となっていくわけです。こうして生活を一緒にしながら年少組として強い絆で結ばれた学級集団が築かれてきたのです。

おうちの方も『てぶくろ』の絵本を読まれたことがある、あるいは読み聞かせをしたことがあることと思います。読み手となれば、絵本の世界をともに体験したことになります。そうすると、「あなたはだあれ？」と聞けば『てぶくろ』のあの場面！と理解できるわけです。

ご家庭と保育の場が共通の文化、言葉、イメージをもつことは、子どもの成長にとってかけがえのないことです。ご家庭と子どもを結ぶ絵本であり、また園とご家庭を結ぶ絵本がある、ここに幼稚園に絵本の部屋が存在する意義であると思います。

本日、愛児会発行の『たけのこ』をお届けします。一人一人の子どもにとって今、お気に入りの絵本が紹介されています。一冊一冊が様々な世界を展開する絵本です。ぜひ新しい世界に出合ってみてください。

（愛児会の皆様、休刊していた「たけのこ」を復活させていただき、ありがとうございました。心よりお礼申し上げます。）

